令和６年度学校運営連絡協議会実施報告

１　組織

（１）都立大崎高等学校　学校運営連絡協議会（定時制課程）
（２）事務局の構成　副校長＝事務局長、主幹教諭１名　計３名
（３）内部委員の構成
　校長、副校長、経営企画室長、教務部主任、生活指導部主任、進路指導部主任、養護教諭（主幹）
　計７名
（４）協議委員の構成
　品川区立ゆたか児童センター館長、戸越公園通り商店会長、保護司、民生委員　計４名

２　概要

（１）学校運営連絡協議会（第１～３回）の開催日時、会場、出席者、内容、その他
　ア　第１回　令和６年７月４日（木）本校校長室、内部委員７名、協議委員４名
　　協議委員委嘱、委員紹介、評価委員の選出、学校経営計画、本校の現状と課題等説明、意見集約
　イ　第２回　令和６年１２月５日（木）本校校長室、内部委員７名、協議委員３名
　　教育活動の進捗状況報告、学校改善に向けた取組について　意見交換
　　学校評価の内容検討、協議
　ウ　第３回 令和７年３月１８日（火）本校校長室、内部委員７名、協議委員４名
　　本校教育活動報告（成果と課題)、学校評価アンケート結果報告、意見集約
（２）学校評価委員会　開催日時、会場、出席者、内容、その他
　ア　第１回　令和６年１２月５日（木）本校校長室、内部委員７名、協議委員３名
　　学校評価の実施に向けた検討（観点・項目・内容・実施時期）
　イ　第２回　令和７年３月１８日（火）本校校長室、内部委員７名、協議委員４名
　　アンケート結果についての検証、次年度実施に向けての検討

３　学校評価（学校評価報告）

（１）観点
　ア　学校への理解
　　学校生活、学習指導、生活指導、進路指導の満足度を把握する。
　イ　学校の教育力
　　各教員の意向を集約し、傾向から教育力を把握する。
　ウ　生徒の期待
　　夢や希望、取組状況を把握し、学校に対する期待値を見る。
（２）アンケート調査の実施時期・対象・規模
　・１２月　全校生徒　　回答率１００％
　・１２月　保護者全員　回答率２２.７％（令和５年度　２９％）
　・１２月　教職員　　回答率１００％
（３）主な評価項目
　・学校経営計画、学習指導、生活指導、進路指導、特別活動・部活動、健康・安全、防災教育、学校広報
（４）評価結果の概要　（学校及び校長への意見・提言内容）
　・登校時の声かけや健康観察を徹底し、生徒の心的なストレスや変容を把握する。
　・地域と連携した防災教育の推進で定時制教育の理解を深めていく。
　・学校の広報・募集活動における更なる工夫改善を期待する。
　・今後、生徒の学校生活満足度の経年経過を確認していく。
　・学校行事活性化を通した教育活動充実の必要性を検討していく。
（５）評価結果の分析・考察（学校及び校長への意見・提言）
　・学校生活（学校行事・特別活動等）の充実は、学校が生徒にとって唯一無二の居場所となるための最重要課題と捉えている。
　・夜間定時制課程の魅力について地域社会に積極的な発信を行うなど広報活動を推進することが大切である。
　・今年度は東京消防庁より本校の救急行政への寄与が評価され、感謝状が授与されたが、今後も東京消防庁や品川区役所などの関係諸機関との連携を強化し、地域と連携した防災訓練を強化していく。

４　成果と課題（学校の自己評価へ反映）

（１）学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

・夜間定時制課程として担うべき学校の役割について再確認し、学校が多様な課題のある生徒の安心した学校生活送るための支援となり、重要な居場所を担っているという点で委員全員が認識を共通にした。

・人を育てる視点で、教員一人一人が日々生徒に寄り添った指導をしていることへの理解が深まった。

（２）学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

・特別な支援を必要とする生徒に対して、相談できる環境及び雰囲気づくりを一層充実させる必要がある。

・学校が生徒にとって唯一無二の居場所となるべく、学校生活（学校行事・特別活動等）の充実に向けた特色のある取組の企画・立案が必要である。

・進路実現に向けて、丁寧な個別指導が重要である。

・今年度、オンライン学習は１回実施したが、教員のＩＣＴスキルの恒常的な向上など授業充実に向けた継続的な取組が重要課題である。

５　教育活動の主な次年度への提言（学校経営計画へ反映）

（１）学校生活の充実

・学校生活（学校行事・特別活動等）の充実を想定した教育活動について、より明確な校長方針を示していく。

（２）学習指導の推進

・多様な学習歴に対応すべき、基礎・基本に徹した教科指導を実践していく。

（３）スクールミッションに基づく学校運営

・新たな時代に向けた学校づくりとして、教え方、学び方、働き方を変えていく。

（４）教育相談体制の充実

・スクールカウンセラーの活用を充分に検討し、有効的かつ実践的に適切、迅速に対応できる生徒が容易に相談できる環境づくりを推進する。

６　「学校がよくなった」と考える協議委員の割合（電話にて回答）

（１）協議委員人数　４人

（２）学校がよくなったと答えた協議委員の人数

そう思う	多少そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	分からない	無回答
3					1	

７　職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

【実績】　職員会議　０回　延０人　　企画調整会議　０回　延０人

【成果】　委員の意見を参考に、外部機関へのアピールの方法を検討し横断幕などの新調し改善を図った。

８　その他

・本校についての理解を地域の方々に深めてもらう取組を積極的に推進する。

・学校評価アンケートの「学校生活における各満足度」の経年経過を把握する。

・オンラインデーを活用した教育活動を基に、新たな課題を把握していくことが大切である。